

◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料400円

智永 真草千字文



1、字句 墨悲絲染

2、形式 半紙タテ使用。右に「墨悲」、左に「絲染」と臨書し、左余白に落款

「〇〇臨」と調和を工夫して書き入れる。

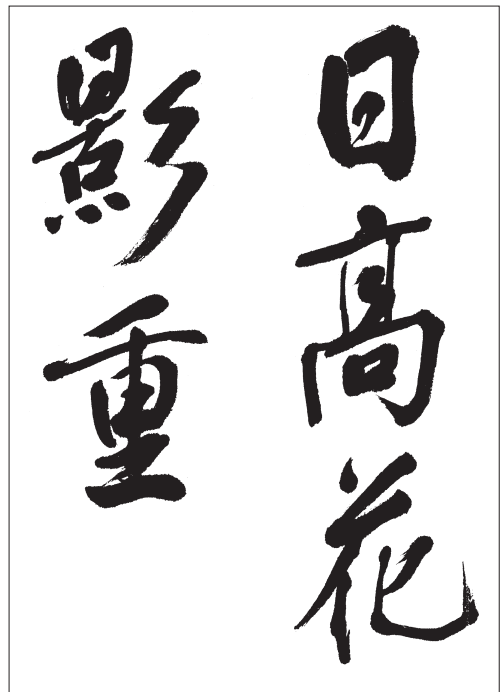
3、概観 今回は運筆について考えてみたい。原帖を見ると、直線よりも曲線の方に特色がよりあらわれています。今回の課題でいえば、「墨」は、直線と曲線がバランスよく配されよく調和しています。それにひきかえ「絲染」は、主とする線が曲線で、筆を引き上げたところから押してゆき、また引き上げるという用筆（太細の変化）は、この千字文の大きな特徴です。
この用筆は、作品制作の際取り入れてよい技法です。

4、各字のポイント

墨 一画目強く突き後筆を引き上げながら右肩上がり。△部で筆の面を変える。三画目の縦画は中心となる筆線ですからしっかりと。四点部分はリズムカルに。末画は静かにおさめる。
悲 ふくよかな線の連続。∴の部分潰れないように。末画はゆったりと。

絲 右から左への画は直線で他は曲線にて。△部で筆の裏面を、○部で表面に返す。二つの点は同じ高さの位置に。
染 △部で筆を引き上げ○部で筆を返す。∴の部分は特徴的な運筆。筆を徐々に押し、後徐々に引き上げる。

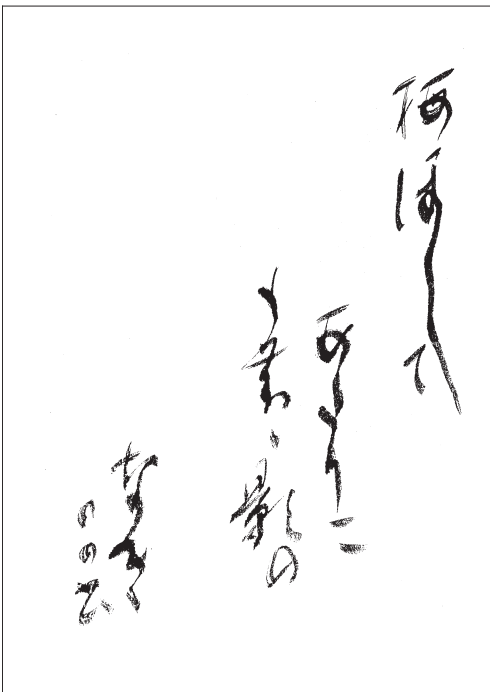
半紙課題(予告) (七月二十二日締切)



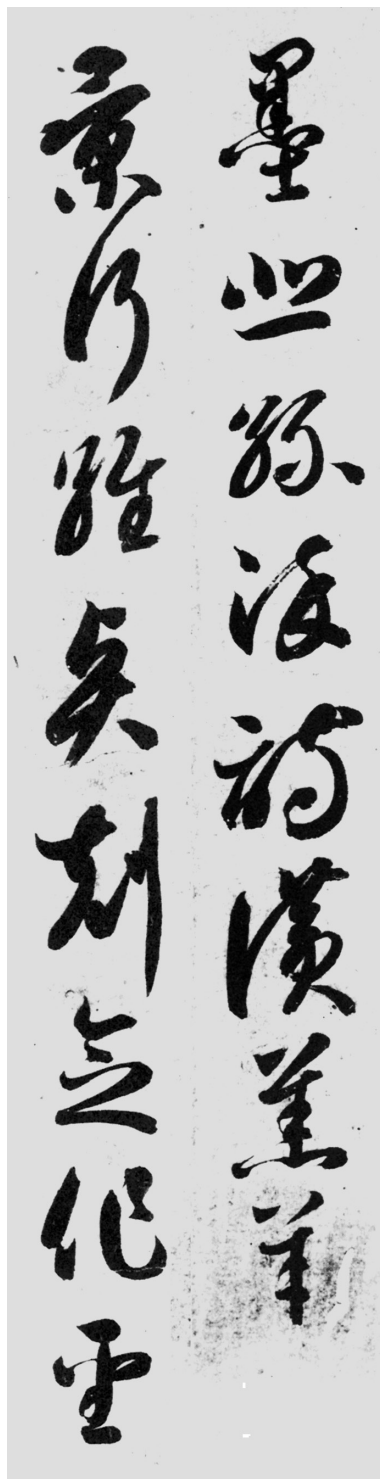
平岡華雪先生書 日高くて花影重なる。(杜荀鶴)

訳：日高く花影が濃い。

平岡華雪先生書 梅干してあたりにももの影のなき(風生)



智永 真草千字文



墨ハ糸ノ染マルヲ悲シミ、詩ニハ羔羊ヲ讚セリ。景行ハ維レ賢ナリ。剋ク念エバ聖トナル。

(参考)



条幅臨書部は半紙臨書部と連動しています。半紙に取り組んだ方は是非条幅にもチャレンジしてください。また条幅だけ出品も大歓迎です。

▽字詰め自由。

▽落款は「○○臨」と調和を工夫し書き入れる。

▽出品料無料。

◆注意 ・条幅臨書部の出品はバーコード券右空欄に条臨と記入する。

A

鈴木静村書

万里雲霄歸鳥盡 孤村風雨落花深 (貞集)
万里の雲霄帰鳥尽き、孤村の風雨落花深し。



B

高橋香樹主幹書

改めて眺め気付いたことは、帰、邨 字の終画の伸び不足。より伸ばしてスッキリ感を出したい。さらに二行目の墨継ぎで、もっと「潤」を出したい。みなさんの打開に期待。鳥、風、花の草体はすでにご存じ、日常草書としての確に用筆されるように。盡、孤の書体は多い。字典を必ず参照のこと。邨、村に同じ。深 黄庭堅を借用。



北魏の楷書を意識して書きました。横画は唐代の楷書より右肩上がりにし、起筆、収筆、転折に特徴があるので、そこに意をもちいて書きたい。霄はこの形北魏の楷書に多い。歸 いろいろな形があるので字典にあたりたい。全体を通して統一感が大切かと思えます。霽 訳：はるかかなたの天空に鳥が飛び去り、田舎の村に雨風が吹いて花が一面に散っている。

予告 (七月二十二日締切)

山林受用琴書鶴

天地交遊風月吾 (葉園)

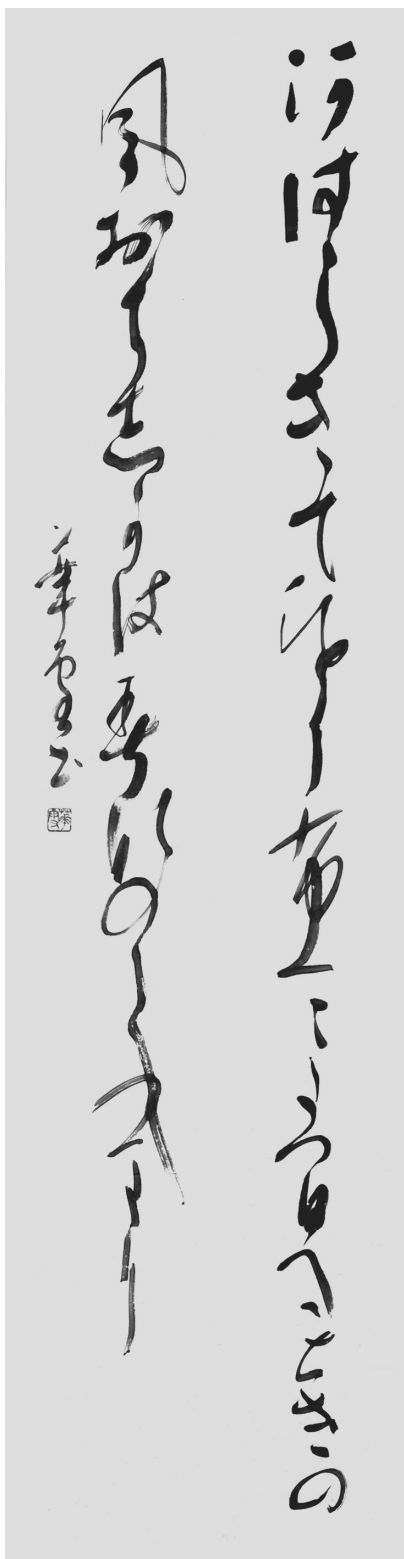
◆注意

- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

A

平岡華雪先生書

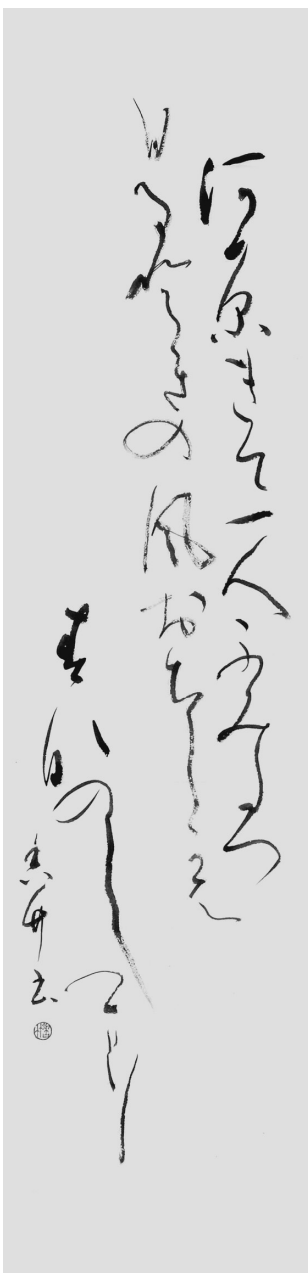
河原来てひとり踏み立つ午どきの風落ちしかば砂のしづまり(宮 柙二)
河はらきてひとり布三多つ日るときの風おち志可は春那のしつ万里



B

青柳香竹先生書

河原きて一人ふみ多つ日る登きの風おちし可者春那のしつ万里



学び方

作品づくりには、時代を考えそして歌意も考えることが大切です。また、潤、渴、疎、密の表出も考えて作品作りに心がけたい。今回は三行書きを試みました。一行目は潤筆で始め、二行目は渴筆であり密の部分である。その上、一行目を相応させる難しさもあります。結句は墨つき、疎であり、伸びやかさとゆったりさ、細、太の線も効果的な方法の一つ。「春那のしつ万里」で、作品全体の流れを出し、締めとなっている。渴筆は急がず、ゆっくりそして鋒を立てて、紙に強くひびくように書けるといいと思います。現代歌人である作品には、出来るだけ変体仮名を使わずに書きたいですね。

予告 (七月二十二日締切)

夏ながら葉の散り落つる梅の木の下への窓に一人して居り(島木赤彦)

宮柙二：大正元年生
北原白秋に師事する。白秋の助手、秘書として献身する。孤独感にとんだ暗い美しさは、歌壇の大きな注目を浴びる。会社勤務を退いてからの作品には、いっそう生命を凝視した、太ぶととした抒情のひろがりが見られる。「定本宮柙二全歌集」は毎日出版文化賞を受賞。生誕地新潟堀之内町に「宮柙二記念館」がある。

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料500円)

条 幅 部 随 意 参 考

野田麗夕先生書

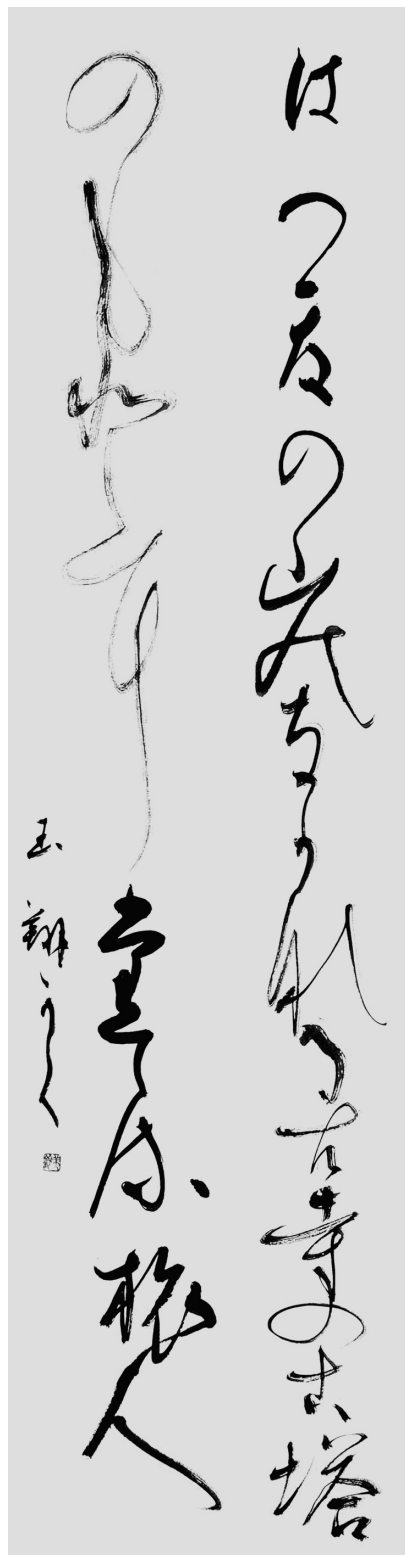
新竹漸添三徑綠 好山常放一簾青（何其偉）
 新竹漸く添う三徑の緑、好山常に放つ一簾の青。



訳：若竹は次第に長じて三すじ通じたこみちをみどりにし、美しい山は巻き上げる簾に入って青い。

福田玉翔先生書

はつ夏の山のなかななる古寺の古塔のもとに立てる旅人（若山牧水）
 はつ夏の山能奈可那る古寺の古塔のも登耳堂て流旅人

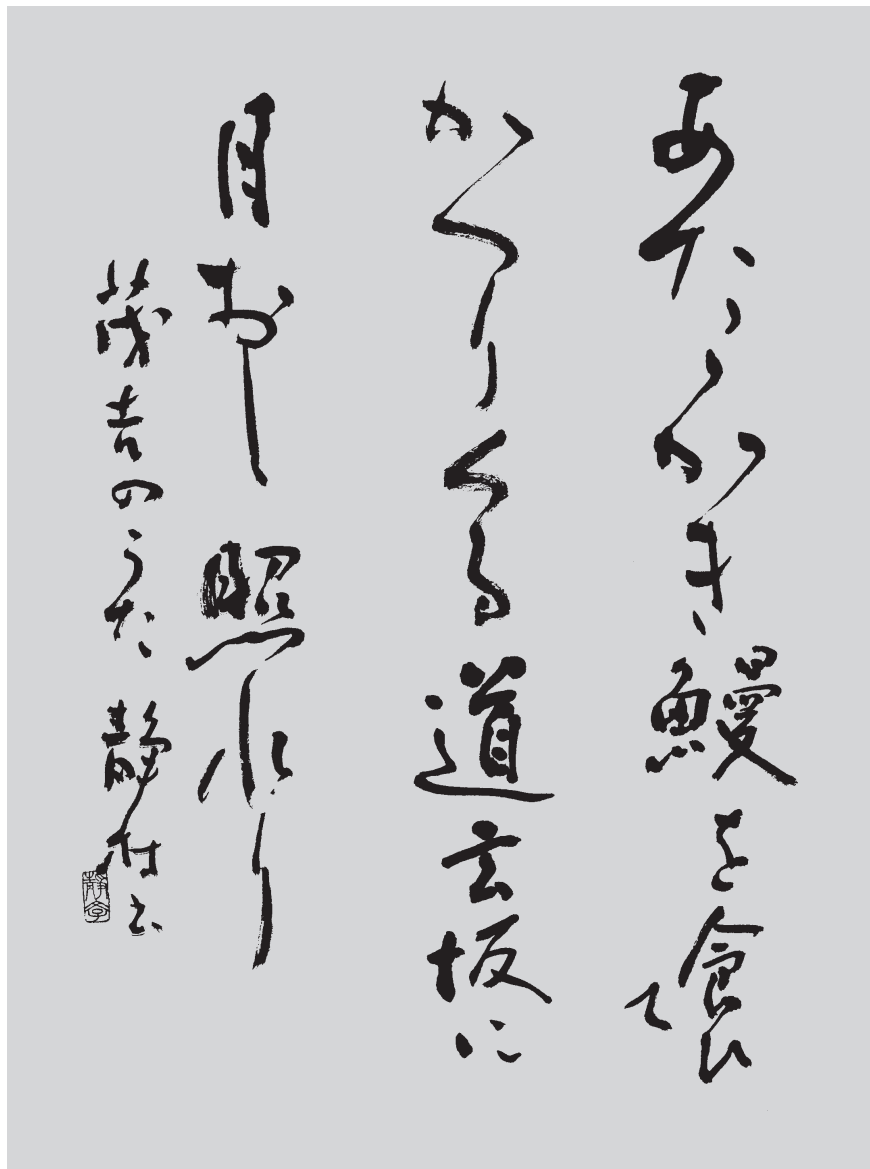


- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条随を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条随を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料500円）

鈴木静村書

△行書き▽

今回は歌意に即して三行の「行書き」に単純化。散らし書きと変わらないポイントは、二行目の濁筆部と、墨継ぎによる潤筆部の表出による山場の構成。一行目「食ひて」の寄せ「て」は硬くならないこと。寄せは意識せず原文通りでもちろん結構。今回は表出の全体感として、かなの筆線をやや強め気味に漢字に近づけてみた。漢字かな交じり書への心組みの一つ――。



△鰻と茂吉▽

みなさんご存知！

茂吉は大の鰻好き。逸話も多い。作歌で行き詰まると鰻を食べ、腹痛を治すといつて鰻を…といった度を越す鰻信仰。この茂吉がよく通った鰻屋が道玄坂の花菱。作者はご機嫌よく坂道を下って行ったことであろう。おしゝすべて一様に

あたたかき
鰻を食ひて
かへりくる
道玄坂に
月おし照れり

(齋藤茂吉)

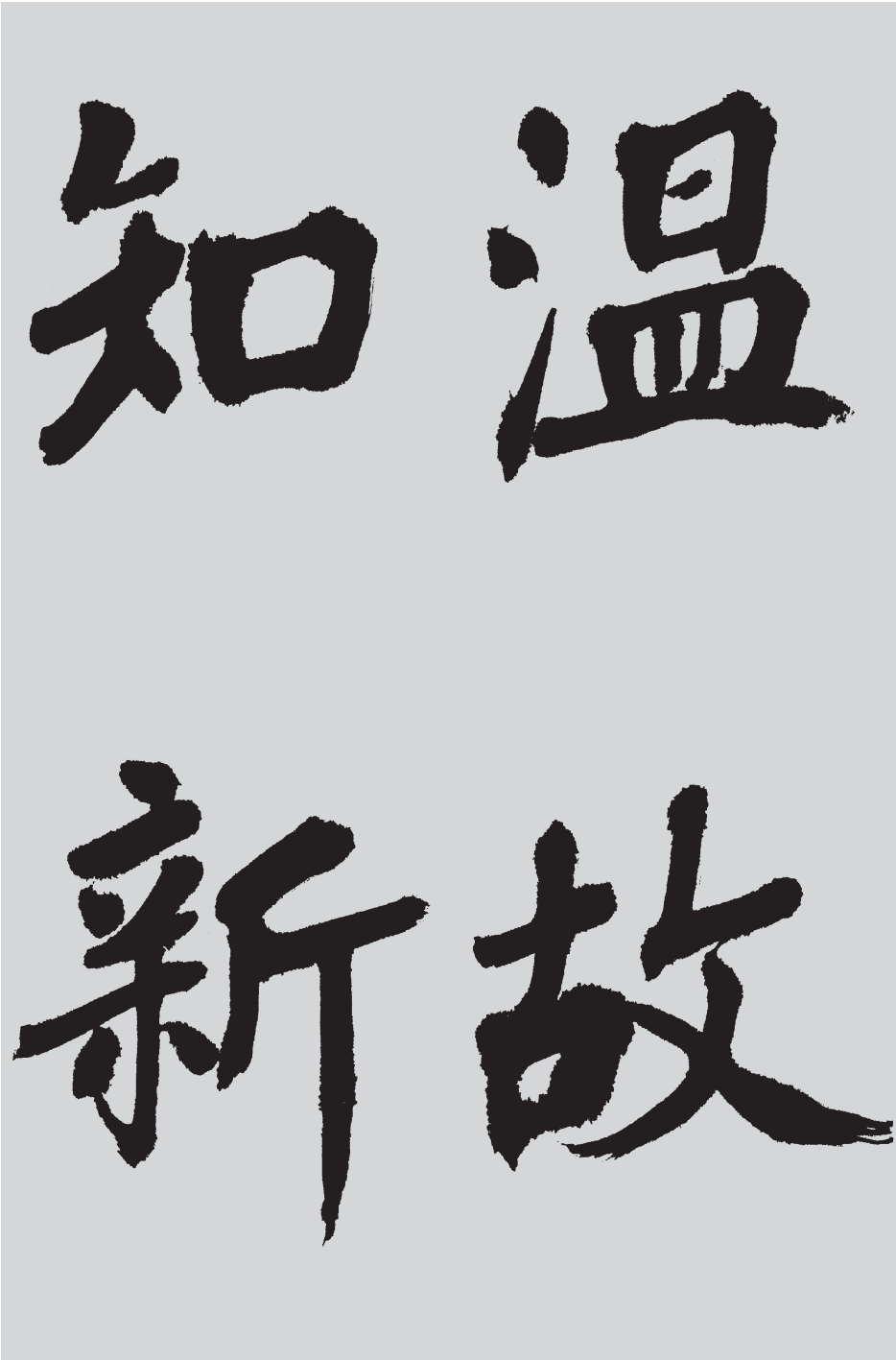
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は400円。

①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

故ふるきを温なねて新あらたしきを知る(論語)
 訳…すでに学んだことをよく研究してこそ新しい道理が
 わかる。

〔形をよくする画の接し方〕
 「故」の八画目は筆意を受けてこの位置に。
 「知」の二画目も同様。画の接し方に注意して練習して下さい。
 「温」最終画右上がりにあらず。「故」の「口」は引きしめて。「知」の「口」
 は下がらぬように。「新」の「斤」一・二画の組み合わせ大切。
 「〇〇書」は余白を工夫して書き入れる。

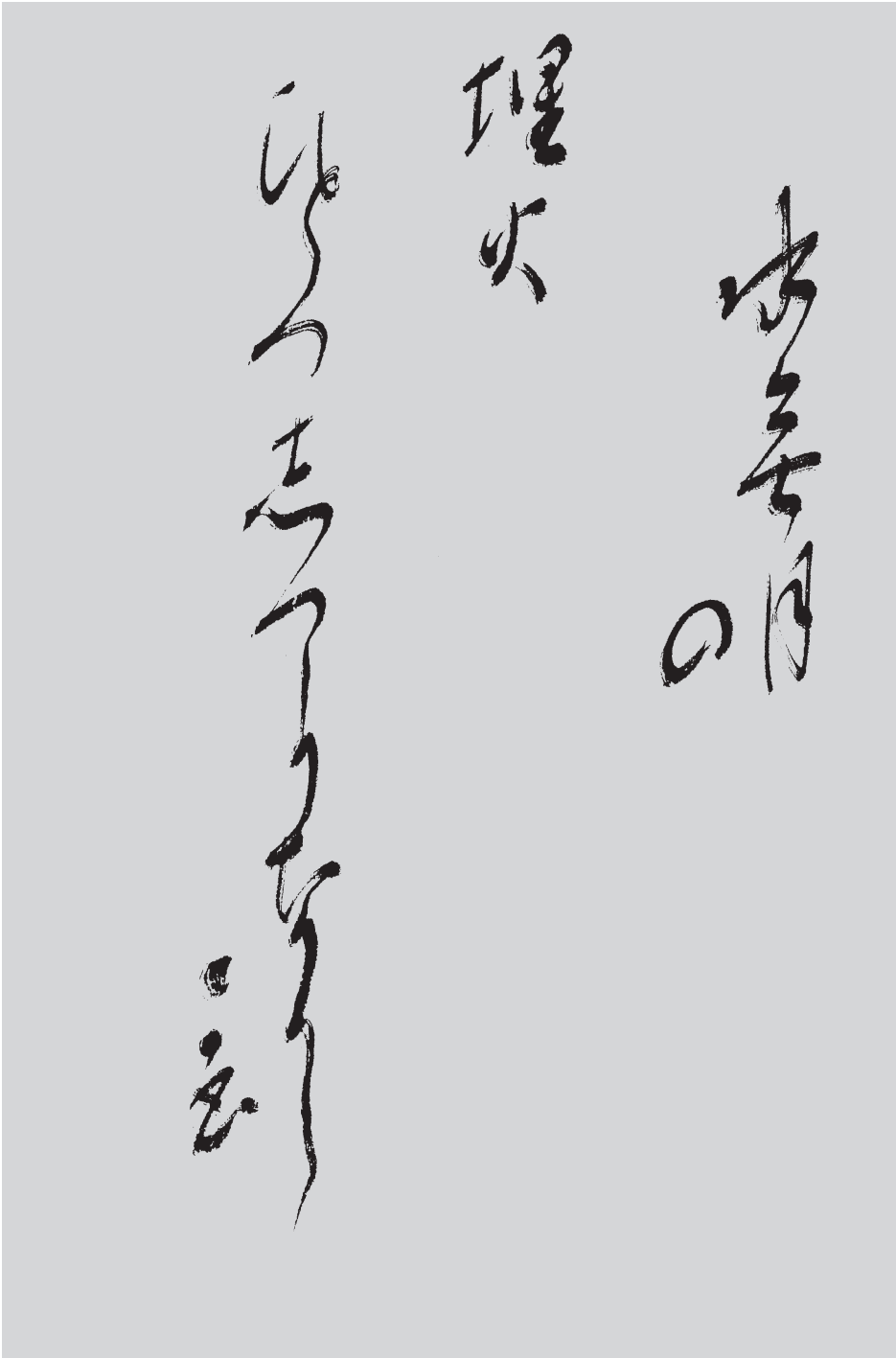


◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は400円。

- ①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

平岡華雪先生書

みなつきの埋^{うみ}火^ひひとつしづかなり(曉臺)
水無月の埋火ひとつ志^{こころ}つ可なり



〈じつくりと書き込むこと〉

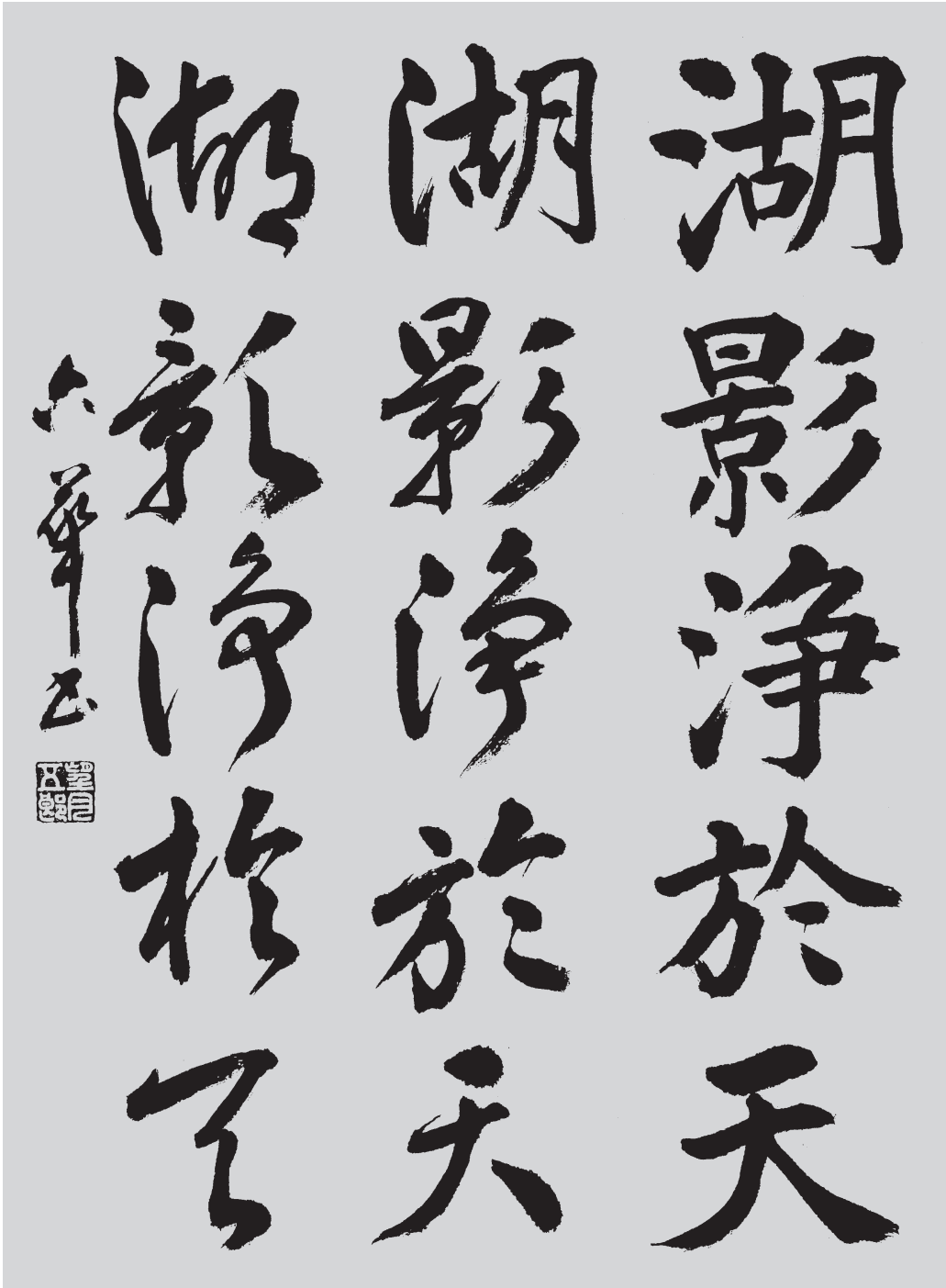
上半部に「の・埋・ひ」と行を改めた構成。要注意は改行する際、筆意が前行と別調になり易いことです。特に初歩段階者は行が改まること、気持ちも改めて変調的な表出になる傾向を見受けれます。要は、自分の調子で書けるまで、じっくりと書き込むことです。「ひと」右下で連綿。「志つ可」緩急のリズムを。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は400円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

望月六華先生書

湖影淨於天（范仲淹）
湖影天於り淨し。

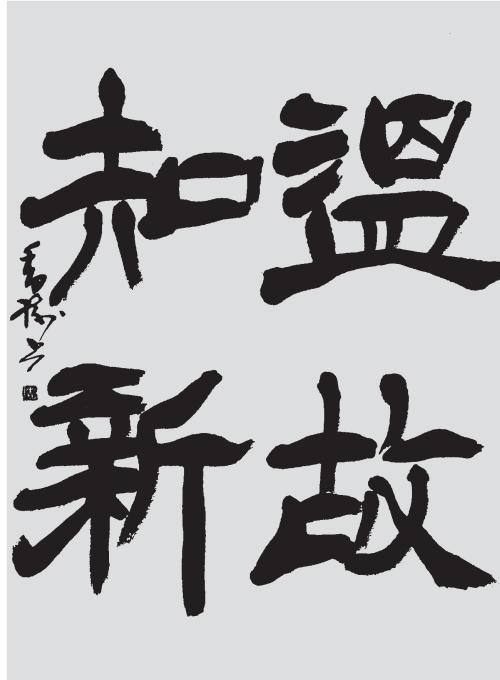
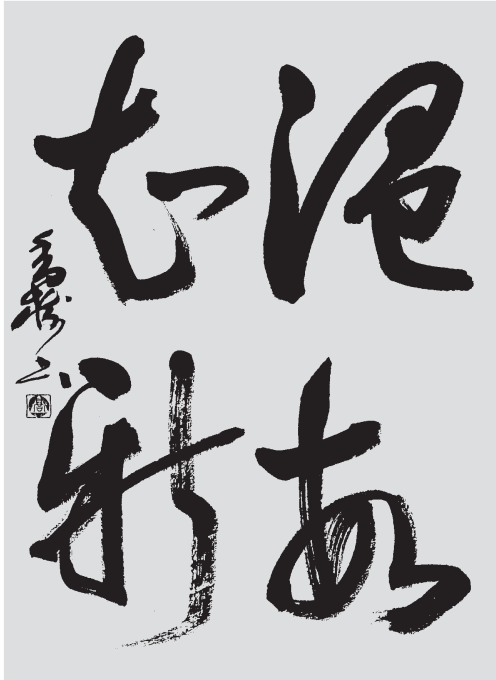
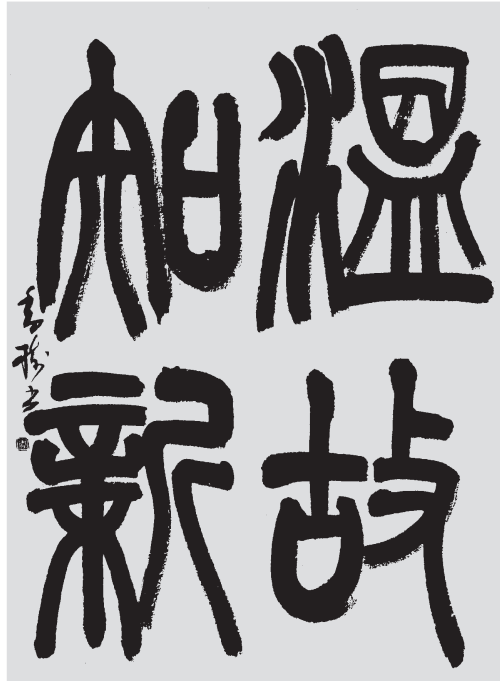
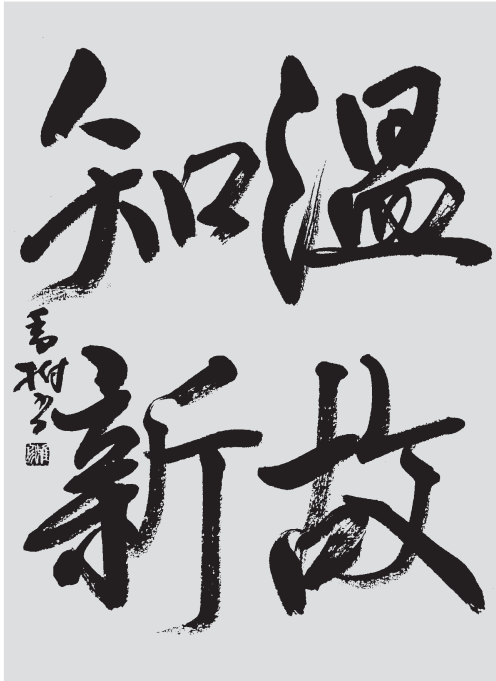


訳：湖水の清きこと、空の色より美しい。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は400円。

高橋香樹主幹書

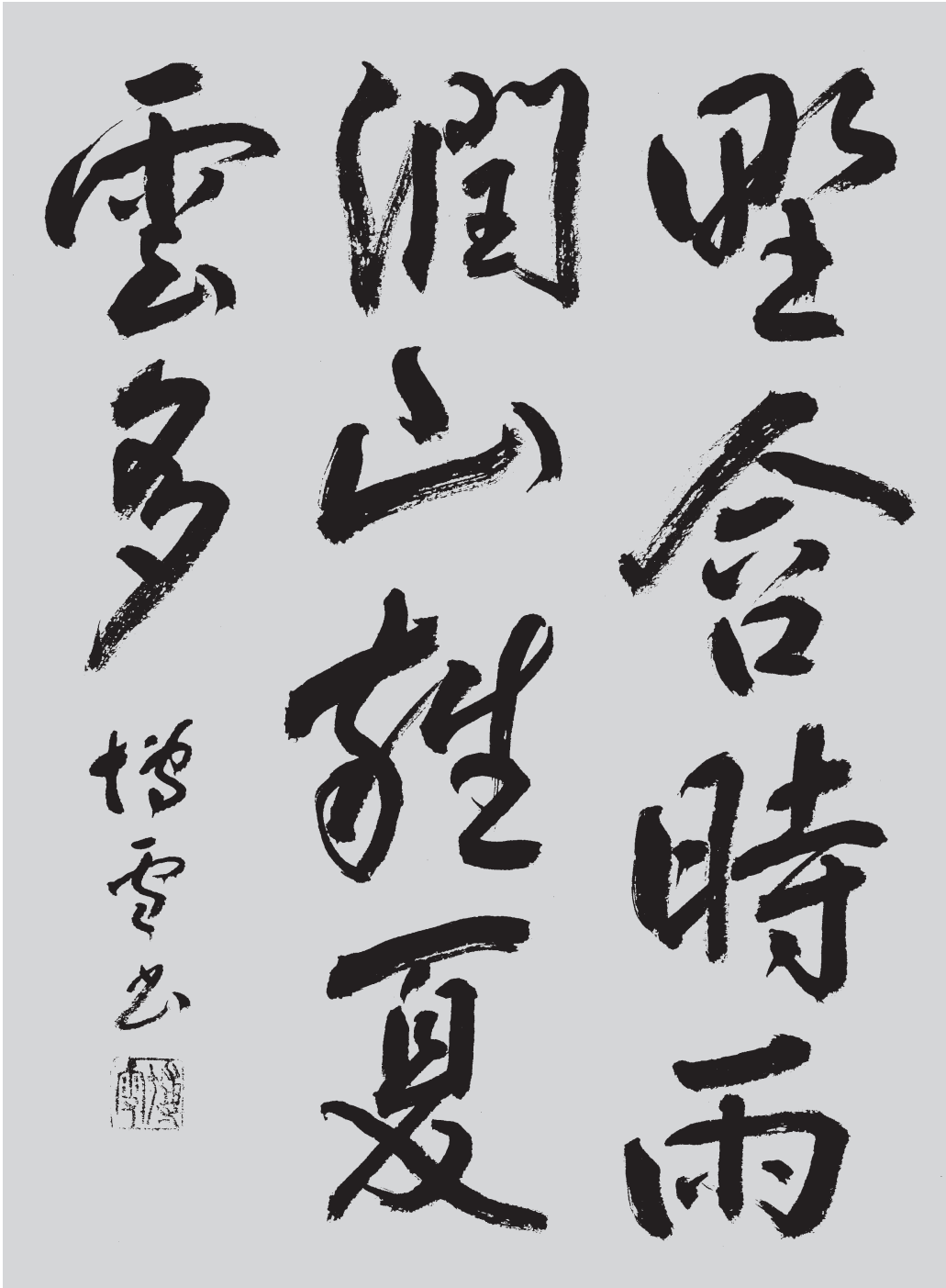
漢字部課題（8ページ・楷書）に連動しています。是非、五体の学習にも取り組んで下さい。出品する時は、この中のどれか一つを選んで提出して下さい。



◆随意部参考として出品してください。

本
田
博
雪
先
生
書

野の含じゆう時じゆう雨う潤うる 山やま雜かうん夏まじ雲まじ多おほ（宋之問）
野のは時じゆう雨うをふく含おんで潤うるい、山やまは夏かうん雲まじをまじ雑おほえて多おほし。

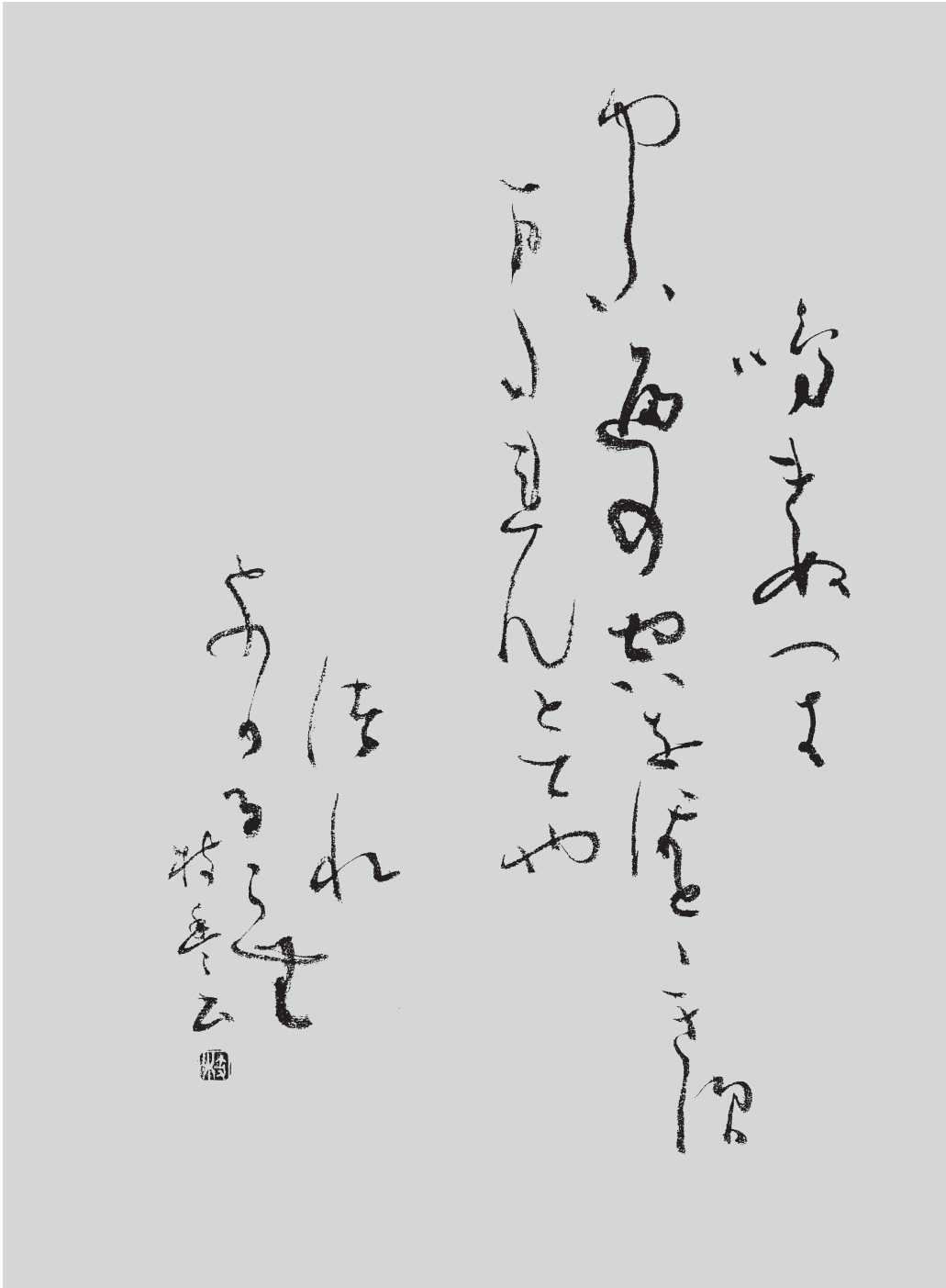


訳：野のはよきあめにうるおい、山やまは早くも夏の雲うらを多くたなびかせている。

添削又は手本希望者は本会規定により、本田博雪先生（〒235-0024 横浜市磯子区森が丘2-16-18）に直接お申し込みください。

鈴木枝豊先生書

鳴きぬべき夕ゆふべの空そらを郭ほととぎす公なまたれんとてやつれなかるらむ(統後撰和歌集)
鳴きぬへ支さゆふ遍への空そらをほと、き須す万多また連たんとてや徒なれ奈か可らるむら無む
藤原基家



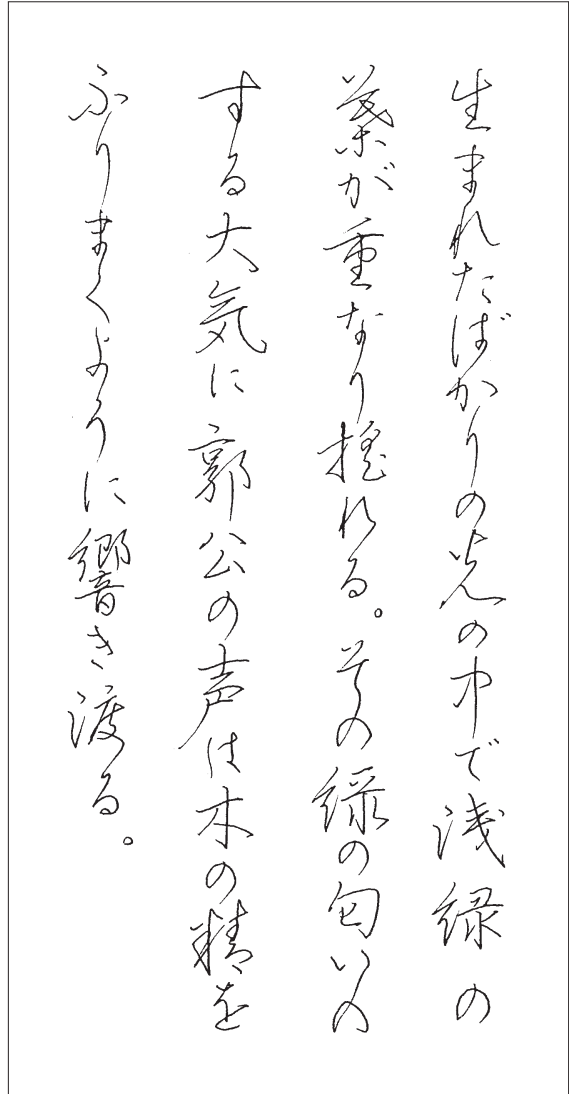
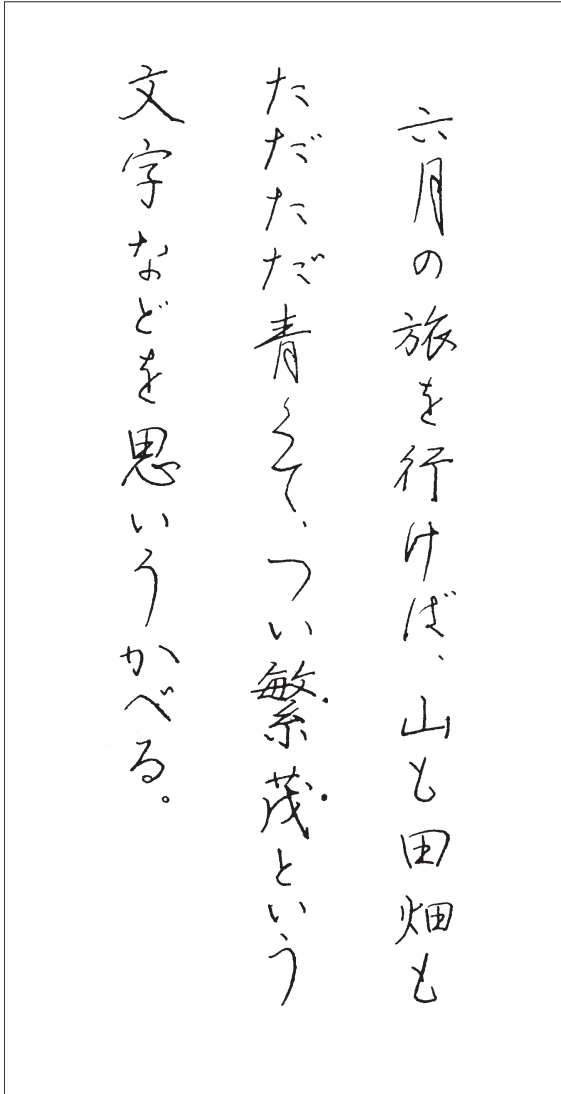
添削又は手本希望者は本会規定により、鈴木枝豊先生（〒154-0012 世田谷区駒沢1-2-28-205）に直接お申し込みください。

湯澤春翠先生書

路川千曄先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)



課題1 (初段階以上)

生まれたばかりの光の中で浅緑の葉が重なり揺れる。その緑の匂いにする大気に郭公の声は木の精をふりまわすように響き渡る。

「風の家」高瀬千図

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位に)次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (4) 会員は無料・会員外は四〇〇円
- (5) 添削希望者は直接担当の先生にお申込下さい。(返信用封筒に自分の住所・氏名を記入し、切手を貼って同封のこと。)

課題1 六〇〇円
課題2 三〇〇円

課題1 路川千曄先生 ㊦二〇七〇〇三

東大和市向原五ノ一〇九一ノ四

課題2 湯澤春翠先生 ㊦三七一〇〇二六

前橋市城東町一―二九一五

課題2 (初段階以下)

六月の旅を行けば、山も田畑もただただ青くて、つい繁茂という文字などを思いうかべる。

「季節のかたみ」幸田 文